

平成29年度第3回島田市総合教育会議議事録

日時	平成30年1月31日(水)午前9時3分～午前10時23分
会場	島田市役所 第3委員会室
出席者	染谷絹代市長、濱田和彦教育長、北島正委員、牧野高彦委員、秋田美八子委員、原喜恵子委員
欠席者	
傍聴人	16人
説明のための出席者	畑教育部長、鈴木教育総務課長、池谷学校教育課長、田中戦略推進課長
会期及び会議時間	平成30年1月31日(水)午前9時3分～午前10時23分
議事	(1)島田市教育大綱について
染谷市長	<p>開 会 午前9時3分</p> <p>定刻を少し過ぎてしまいました。</p> <p>ただいまから、第3回総合教育会議を開催いたします。</p> <p>開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>本日はお忙しい中、そして、このところほんとに寒い日々が続いておりますが、そうした中、当会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>新しい年を迎えて、決意も新たに市政に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様、今年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。</p> <p>1月4日の仕事始めの式において、職員に対していくつか話をしたのですが、その中で、今年は明治維新から150年の節目の年だということをお話しました。明治維新のような時代が大きく変わるときには、その時代に必要な人材、逸材が、まさに時代が人を創るというように生まれてくる、そういう話をいたしました。平成30年を迎えた今年、明治維新にも劣らぬ時代の大きな変革のときが来ていると思います。右肩上がりだった時代から、全くそれを裏側から見るような時代背景になり、我々も人口減少、急激な高齢社会、そして少子化の波、こういったものにどう対応していくのか。過去の行政の事例を参考にして、将来を決めていくことができない時代になっています。</p> <p>そうした時代に、明治維新同様、まさに人づくりがこれからの時代を左右するとお話をいたしました。</p> <p>優秀な人材をいかに世に送り出していくのか、学校教育にかけられる期待も大きくなっていると思います。</p> <p>島田市の教育方針に掲げる、豊かな心を育むということは、こうした激動の時代を生き抜いていくために必要な思いやりの心、そして感動する心、強い心を育成することであろうと思いますので、今後も皆様のお知恵をお借りしながら、将来を担う子供の育成に取り組んで参りたいと思います。</p>

さて、前回の総合教育会議では、教職員の多忙化解消の具体的な取り組みとして、夏休み期間中に学校閉校日を設けることについて、および、部活動の計画的な休養日の設定について、この教育会議において意見を出し、学校現場においては、来年度の実施に向けて各方面との調整に入ったところであります。このように、この総合教育会議での意見が、市の教育行政における課題解決に繋がっていけばと思いますので、今後も教育委員の皆様から、より魅力のある島田の教育の実現のために、御意見御提言を是非お願いしたいと思っております。

最近では、大手の新聞社やメディアからも、総合教育会議の在りようについて、各市町で実質的に機能しているのか、年何回くらい開催しているのか、教育会議において決めたことが教育現場に活かされた事例はあるのかというような、大変細かな調査票といいますかアンケートなども届いております。

全国市長会議の場でも、教育再生会議がもたれまして、さまざまに教育現場に、当局側と教育委員会との連携のあり方が、大分話題になってきております。

こうした意味でも、私は、この島田の教育委員会が、しっかりと当局側と教育委員会との連携と信頼において、ことしもいろいろな話し合いができ、その成果が現場にとって有益な方向に繋がっていくことを願っています。

ではここで、濱田教育長からも御挨拶をいただきます。

皆さん、おはようございます。

今、市長からお話がありましたが、前回の総合教育会議で話し合われた働き方改革については、教職員そして校長会から大変好感を持って、もっと言うと、歓迎されておりました。校長会でも協議をして、8月の3日間の閉校日、これを進めていくことが話し合われています。当日は、予算の問題とか課題もあるという話もしたのですが、予算化されなくても進めていこうという話し合いがなされていると聞いています。また、部活動につきましても、第3日曜日を原則として休養日にすることも決まると聞いています。今後も、働き方改革を更に進める方向で、校長会と教育委員会が連携していかなければならないと思っています。

きょうの総合教育会議は、教育大綱の見直しというテーマで話し合われますが、前回大綱を作成してから今までに大きく前進したことが2つあると思っています。1つは、就学前の子育てについて大綱にきちっと位置づけられたものですから、子育てに係わる部署と教育委員会の連携が大きく前進したこと、それからもう1つは、市民総がかりの教育を全面に打ち出したことによって、それが形になってきたことです。

子育てネットワークの関係では、社会教育課、それから子育て関係部所、関係団体が、年7回も会合を開いていますし、困難を有する子ども・若者に関わる実務者会議も隔月で行われていて、大変話し合いの内容が濃くなっていると聞いています。そういうものは、本当に幼児教育が総合教育会議の中、大綱にきちんと位置づけられたことの成果ではないかと思っております。地域との連携につきましても、地域の駄菓子屋さんとか寺子

濱田教育長

屋というような事業が複数の自治会でスタートしていますし、放課後子ども教室も岡田自治会の協力によって、大変充実しているとも報告されています。

今回の見直しでも、この流れを大切にしたい協議がされるといいなと思っています。

[議 事]

ありがとうございました。

それでは、次第に従い議事に入りたいと思います。今回のテーマは、島田市教育大綱についてです。平成28年に策定した大綱が、今年度までの期間となっており、新たに策定する必要があります。こちらについては、本年度第1回の総合教育会議において改正の仕方について議論をし、大きな改正は必要とせず、平成30年策定の第2次島田市総合計画と整合を図る形でいくという意見をいただいたところでございます。この意見を元に、事務局で案を策定しておりますので、ご覧いただければと思います。

事務局から補足等ありましたら、お願いをいたします。

それでは、大綱の素案について、御説明申し上げます。

皆様方のお手元に配付してございます、島田市教育大綱（案）の冊子をご覧ください。本年度第1回総合教育会議におきましては、大綱の改訂について御協議をいただいているところです。その際の御意見として、大綱というものは毎回大きく変わるものではないので、基本的には現在の大綱を引き継ぐこととし、多少の文言の修正を行うことにとどめるという結論を頂戴してございます。

このことを踏まえまして、1ページ目をご覧ください。

大綱策定の背景、大綱策定にあたっての考え方を記してございます。なお、大綱の策定にあたっての考え方には、現在策定が進められております第2次島田市総合計画前期基本計画と整合を図ることを記載してございます。

お配りしました資料に、A3判のものがございますが、こちらをご覧ください。これは、大綱と第2次島田市総合計画前期基本計画との関連性を記したものでございます。参考にご覧ください。左側半分には、大綱に掲げる施策の柱、目指す姿、重点的取組という形で表した教育の基本理念を、右側半分には、これに対応しました第2次総合計画前期基本計画の施策の内容等を統計図に表してございます。

このように、大綱に示す基本理念にのっとりまして、総合計画に掲げる施策を推進していこうとするものでございます。

本日の会議では、先ほど申し上げましたとおり、現在の大綱を引き継ぐことを基本とする中での文言の修正について、次の2つの点を御検討いただきたいと考えております。

もう一度、島田市教育大綱（案）の冊子をご覧ください。2ページ目をお開き願います。この中では、「市民総がかり」という言葉がこの大綱の中でいくつか使われておりますが、「市民総ぐるみ」という言葉遣いが良いのではないかと御意見を以前頂戴しております。この点につき

染谷市長

鈴木教育総務課長

まして、「市民総がかり」とするか、「市民総ぐるみ」とするか、御検討をいただきたいと思います。

もう1点については、ここ最近において、公民館活動や、寺子屋事業など、地域と一体となった活動が外部から認められて、島田の教育の特徴の1つとなってきておるところでございます。このようなことから、「地域の教育力」という表現をどこかに加えたらどうかと考えておるところでございますが、皆様どのようにお考えになるか、御意見を頂戴したいと考えております。

染谷市長

ただいま、事務局から説明がありました。

まず1点目の、「市民総がかり」という表現について、いかがいたしましょうか。第2次島田市総合計画案では、「地域ぐるみ」という表現を用いております。

しかし、県の教育大綱など見ますと、「社会総がかり」とか「地域ぐるみ」という2つの表現を使い分けている部分もございます。

島田市の現在の教育大綱では「市民総がかり」となっていますが、「地域総ぐるみ」という両方の表記のときに、どのように考えていったらいいのか、御意見をいただきたいと思いますが、北島委員、いかがでしょうか。

北島委員

きょうは、辞書をいくつか持ってまいりました。

「ぐるみ」という使い方、何かで包む、本来の漢字は「包む」という字ですね。ひっくるめてとか、その包まれた中のものは残らず全てという意味が入っております。用例としては、例えば家族という単位がありますね。家族ぐるみ。それから、町ぐるみとになっています。

そういうことで、くるめられるものは全てという意味を含んでいますから、「総ぐるみ」というのは、総というのが全てということを実はくるむに既に含まれていますから、二重に表現している感じですね。ですから、「総ぐるみ」というのは用例として実はないです。辞書にも載っていません。ところが、「総がかり」は載っています。「総」がつまり全てということなのですけれども、「かかり」というのは、時間とか労力を負担するというときに、「掛かる」という掛川の掛という字ですね、この漢字がもともとの字ですが、お金を掛ける、時間を掛ける、それからマンパワーですね、これを掛ける。ですから、例えば5人掛かりで何かをするとか、3日掛かりの仕事計画とか、それから、親のお金とか労力とか気持ちとか全てでしようけど、親掛かりとかですね、こういうような用例がございます。

では、そこには、「かかる」の前には、かなり具体的な数字だとかイメージできる具体的なものがあるわけですが、では全てだということになると、そこに「総がかり」という言葉があって、これは辞書にしっかりと出ています。では、「総ぐるみ」というのは、「総がかり」と比較したときに似たような言葉ですが、時間・労力・お金、そういったものが実際に掛かるのだと思いますと、かなり具体的な名詞が「かかり」の前につくのが自然な言葉ですね。それが全部だとなると「総がかり」、なんの全部かがさらにもう1つ入っています。お金だとか、日にちだとか、

人間だとかです。そうすると、「市民総がかり」というのは、極めて自然な使い方ですね。

でも、例えば「社会総がかり」というのは、はっきり言うと間違っていると思います、言葉の遣い方。社会というのは、極めて漠然としたこの世の中全てとか、あるいは、少子化社会、高齢化社会とか、グローバル社会とか、そういうふうな使い方、よく社会というふうに使われますけれども、そういう社会はどういう社会か、全然具体性がないんですね。ですから、「社会総がかり」というのはなしだと思えます。

それから、地域のところに「総ぐるみ」という「総」をまたつけ加えるのは、やはりそういうことで、誤りであろうと考えますと、「市民総がかり」というのは、とても良い表現ではないかと思えますね。

和英辞典を見ますと、実は、日本語の分からない外国人にどう説明するのかという用例が出ています。「ぐるみ」と「総がかり」は、それぞれ項目があります。「総がかり」はありますけど、「総ぐるみ」はないです。「ぐるみ」の場合は、例えば「町ぐるみ：throughout the city」となっています。それから「総がかりで」は2つありまして、「all together」と「with united efforts」とあります。ですから、やはり「総ぐるみ」は、少しおかしいですね。日本の辞書と同じで、「総がかり」はありで、「総がかり」の「総」の前には、かなり具体的な名詞が1つ必要である。そのように思います。

染谷市長

辞書に基づいて発言をされておりますので、次の方、話しにくくなるかもしれませんが、牧野委員、いかがでしょうか。

牧野委員

「市民総がかり」というのは、非常に能動的な言葉ではないかと思えます。包むというのは、受動的な感じがします。

市民の中には、赤・青・黄色、いろいろな色があるイメージがあります。それぞれが係わってくること、先ほど言いましたように、非常に能動的な感じがします。こちらの言葉がいい、島田には合っていると思えます。

染谷市長

お二人共、しっかりと根拠を示されて、大したものですよ。

秋田委員

では、秋田委員、いかがですか。

難しいことはよく分からないですけれども、「総がかり」というと、いろいろな方向性があるのかな、いろんな市民の方がそれぞれの力を発揮できる場所で、それぞれの形でという感じを受けます。もう少し細かなところで、「地域ぐるみ」という言葉が出てくると、それはまた、「総がかり」の中の「地域ぐるみ」という印象を受けますので、ここは今の言葉のままでいいのかなと感じております。

染谷市長

原委員、いかがでしょう。

原委員

何にも知らなくてこの言葉をぱっと聞いたときに、「総がかり」に違和感があって「総ぐるみ」というのが、自然に入ってきました。

しかし、よく考えてみたり、やはり辞書を少し見た段階で、「総がかり」が、全員が参加してことに当たること、みんなで補い合ってやっていくこと、という表記がありました。それから、「総ぐるみ」というのは、全体が一体になってことに当たることという表現でされていたのですけれど

ども、島田市の強い意志を感じるころは「総がかり」という言葉で、全員が参加して、ただまとまってやっていくのではなくて、それぞれのことに個々が当たっていくことを、すごく重要視している印象を受けますので、「総がかり」という表現のほうが適切ではないかと思いました。

染谷市長

ありがとうございました。

教育委員の皆さんの御意見は、みんな「市民総がかり」のままでよろしいという意見でございます。

教育長、何かありますか。

濱田教育長

言葉の持つイメージがあると思うんですね。そのイメージは、その人の生きてきた生き方とかにも係わって、少しずつイメージが違いかもしれませんが、私個人的には牧野委員がおっしゃったように、「総がかり」のほうが、能動的・積極的なイメージがあると思っています。そのような使い方を自分は今までしてきたと思います。

そういうことから考えますと、牧野委員と同じように「市民総がかり」のほうが、島田の大綱には合っていると思っています。

染谷市長

この件、全員一致ということで「市民総がかり」という表現のままにしたいと思います。

続きまして、「地域の教育力」という表現についてでございます。この言葉を大綱に入れるとしたら、どういう表現にしたらよいのか、皆さんから御意見を伺いたいと思います。

この件についていかがでしょうか。

では、きっと準備をされておられるであろう北島委員、いかがでしょうか。

北島委員

「地域の教育力」という表現は、今の文部科学省からも、コミュニティスクール、地域と学校が共にあるという考え方が提示されています。前回の教育委員会の中でも、少しこれがディスカッションされたのです。静岡は、「静岡型のコミュニティスクール」を進めているようでありませけれども、そういう意味から考えますと、将来にわたっては「地域の教育力」という言葉をどこかに取り入れたほうがよいかなど感じはいたします。おっしゃるとおりだとは思いますが。

この大綱の中の2ページの信頼される学校づくりというところと、3番の自発的な生涯学習活動の活性化ですね、このどちらにも関わってくる内容かなと思います。

例えば、「(2) 信頼される学校づくり」に、「市民は、児童・生徒の豊かな心を育み」と目指す姿が表現されていますが、このところに、例えば「市民は」のあとに、先ほどの言葉ですが「地域ぐるみで児童・生徒の豊かな心を育み、確かな学力と生きる力を培います。」というところが1つあってもいいのかなと思います。

それからもう1つ、(3)のところだと、「市民は、生涯を通じて求めて学び、自らの心を豊かにし、地域の教育力を高めます。」というふうに、最後のところに入れる。というくらいでどうでしょうか。

染谷市長

文部科学省が、地域と学校が共にあるというコミュニティスクールの考え方も示している中で、どこかにこの「地域の教育力」という言葉は

入れたほうがいいのかということで、入れるとしたら、施策の柱の2の中の(2)です。「信頼される学校づくり」の中で、「市民は、地域ぐるみで児童・生徒の豊かな心を育み、確かな学力と生きる力を培います。」とするか、あるいは、(3)のところで「めざす姿」に「市民は、生涯を通じて求めて学び、自らの心を豊かにし、地域の教育力を高めます。」という、2つの事例で御意見をいただきました。

北島委員の御意見も踏まえながら、お考えを聞かせていただければと思いますが、まとまりましたか。お願いします。

牧野委員

「地域の教育力」といいますと、学校教育、社会教育、もっと広い地域のさまざまな力があるのではないかと思います。そうしますと、施策の柱の(1)で、例えば「めざす姿」の中で、「市民は、地域の教育力を活用し」という言葉を、「めざす姿」の中に入れてみたらどうでしょうか。

染谷市長

施策の柱の(1)のところですか。

牧野委員

「市民総がかり」を受けて、「地域の教育力の活用」というのを「めざす姿」の文章の中に入れてたらどうでしょう。

染谷市長

今、「めざす姿」は、「市民は、子どもやその親を地域ぐるみで支援します。」となっています。ここに、「地域の教育力」という言葉を入れてくる、ということですね。

牧野委員

はい。

原委員

難しいと思うのですが、しかし、「信頼される学校づくり」の中で、これから求めていく学校教育というのは、今までもそうでしたが、更に地域と共にある学校で、それから、地域の力を活かしていく、連携を取りながら地域の力を借りて運営していくことが、求められているのではないかなと感じました。

ですから、(2)の中に「地域の教育力を活かして」という文言が入ってくれば、ひとつ学校教育との繋がり個人地域の力が両立できるかなと思いました。

染谷市長

そうしますと、(2)の「めざす学校づくり」のところの「めざす姿」に、「地域の教育力を活かして」という言葉を、一番前に持ってくるということによろしいですか。

「地域の教育力を活かして、市民は、児童・生徒の豊かな心を育み、確かな学力と生きる力を培います。」という形になります。

秋田委員、いかがでしょう。

秋田委員

私も自分の地域のほうで、自治会がやっている寺子屋活動のお手伝いをさせていただいているんですけども、その様子を見ていると、もちろん寺子屋に来る子供達のためになっていると感じるんですけども、その一方で、運営をしている大人側もそこからいろいろなことを得て、ボランティアで子供達を教えるてくださっている、元教員の先生方も、本当にいろいろな工夫をされて生き生きと活動されている姿を見ますと、あくまでも子供達の教育という一方的なものではなくて、寺子屋事業とか、公民館活動というものが、どの世代の人達にとっても、学習活動になるというか、いい側面があるのではないかなと思うので、本当に難しいのですけれども。

染谷市長
濱田教育長

私は最初は、「青少年の健全育成」につながるのかなと思っていたのですが、それよりも（３）の「生涯学習活動」の側面のが強いのかなと、今皆さんの話を伺いながら感じています。

教育長は御意見ありますか。

開かれた教育課程ということ、それからコミュニティスクールの考え方からいきますと、（２）「地域の教育力を活かして」という文言を入れるというのは、１つの案だと思います。

それから、秋田委員が悩んだように、私も（３）の「自発的な生涯学習活動の活性化」の中に入れるか、（４）の「青少年の健全育成」の中に入れるか、大変迷ったところです。

（２）（３）（４）どこに入れてもいいと思います。

「青少年の健全育成」の例をとりますと、重点的な取組の中に、「家庭・学校・地域が一体となって」という表現があります。これがまさに「地域の教育力を活かした」という表現でありますし、それから（２）においても、「家庭や地域、小・中学校の連携をして」というのは、まさに「地域の教育力を活かして」にも繋がる表現になっています。重点的なところまで読んでいきますと、さまざまところで、「地域の教育力を」につながる内容があるものですから、今、皆さんの意見を聞いている中では、「地域の教育力」という言葉を直接使わなくても、そういう表現がちりばめられているし、それから、そういう動きが既に形となっている。１つの例は、三ッ合町の寺子屋事業を自治会が主体で開催していただいているということもあります。それから、駄菓子屋のこともそうですし、湯日の活動も大変評価される場所があると思います。

今、そういうことを総合的に考えますと、「地域の教育力」という文言を使わなくても、この第一期の大綱の中に、それに係わるような内容が大変たくさんあるものですから、あえて入れなくてもいいという選択肢もあると、今皆さんの意見を聞きながら思いました。

最初は「地域の教育力」は是非入れたいと私自身思っていました。皆さんの意見を聞いていく中では、その思いはもうここに書かれているからなしでもいい、ただ思いだけは大事にしていかななくてはならないというところが、今の私の考え方です。

染谷市長

私は意見を言っているのか分かりませんが、私自身も「地域の教育力」というのは、子供たちだけではなくて、そこに暮らす大人も実は死ぬまで成長していて、それにすごく大きな関わりを学校現場で得ていると。双方がウィンウィンだなと感じるんですね。特にこれからの時代、子供との関わりの中で、自らの地域で役に立つ体験というものが、地域コミュニティも育てていくのではないかなと強く思いました。

これまでの議論を踏まえて、プラス何か御意見のある方、いらっしゃいますか。

今、教育長からは、あえて入れなくても既に「地域の教育力」ということは、いろいろな文言の中に、「めざす姿」や「重点的取組」の中にも含まれていて、あえて書き加えなくても、解釈の中で十分やれるのではないかという意見もありました。

北島委員 そうですね。入れるとすればと私も申し上げたんですが、入れなくてもよいかと思います。

 ということは、島田の教育現場を見てみますと、先ほどコミュニティスクールのお話をしましたけれども、少なくとも、静岡型のコミュニティスクールに内容的にはほぼ合致する成果を得ていると思います。既に得ているものを、あえて書く必要があるかなというところですね。案外、それを言葉にして意識してアピールしなければならないというほどのことが逆になくとも思えるものですから、なくてもいいかなと私も半分思っています。

染谷市長 他にはいかがでしょうか。

 皆さんの意見を聞いていて、自分も少し考え方が変わったという方はいらっしゃるいませんか。

牧野委員 あえて入れればと考えていたものですから、御説明のあった、もう含まれているので、それで説明はできると考えました。

染谷市長 あえて書き加えなくても、解釈の中で十分生きているのではないかという意見が出て参りましたが、原さん、秋田さん、その件についてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

原委員 書かなくても「重点的取組」等の言葉の中にそれに値する言葉が入っていますので、あえて書かなくてもいいと思いました。

秋田委員 かえって、入れることで限定されてしまう、そこが強化されることもあると思うので、あえて入れないという選択肢もあると思います。

染谷市長 ありがとうございました。

 大体、皆さんの御意見を聞く中で、「地域の教育力」が大事だということ。そして、どの世代の人達にとっても、大変大事な学習の場となっていくことについては、考えが一致したところであります。そしてまた、この「地域の教育力を活かして」という文言が入らなくても、既に十分我が島田市の教育大綱は、地域の教育力を活かす中身になっているという解釈で、文言をあえて加えることはやめるという選択でいかがでしょうか。

 よろしいですか。

 ありがとうございます。

 では、それでは、第2次の島田市教育大綱においては、文言の検討は致しましたが、これまでと同じ内容で島田市教育大綱とするということで、御賛同いただければと思います。

 よろしいでしょうか。

 ありがとうございます。

 他に何かありますか。

秋田委員 すみません、1点よろしいでしょうか。

 大綱の中で、柱の部分ですけれども、「子育て支援」「学校づくり」「生涯学習の活性化」と並んでいるのですけれども、その中で「学校づくり」のところだけ、内容ではなくて他の言葉との関係で「学校づくり」という言葉が、もう少しバランスのいい言葉があればと思ったのですが。

染谷市長 御提案、御意見、ありがとうございます。「学校づくり」という言葉に

ついてですね。

秋田委員

他は、漢字で「支援」「活性化」「振興」「活用」という形でなっているものですから、そこだけ「学校づくり」となっているところが少しバランスが。もしも同じような意味合いでバランスのいい言葉があればと思ったのですが。

染谷市長

施策の柱の（１）から（７）のところまで、大体皆、最後の止め方が「支援」とか「活性化」とか「育成」とかとなっているのですが、（２）だけが「信頼される学校づくり」となっていて、ここをどう考えるかという話です。

北島委員

「学校づくり」と最初読んで、別に悪くないと思ったのですがけれども、今は信頼される学校ができていない、だから作るのだというふうに考えると、論理的にはすっきりしますね、言葉として。だけども、実際そうなのかという、そんなことはありません。ほぼいい線いっていると思うのです。けれど、明日のことは分かりません、というのが、生きている社会で、学校もそうです。何が起こるか分からない、けれども何があっても大丈夫だというその気持ち・体制を作る、そういう意味で、学校を作るというか、対応力を増すをいいますが、そういう意味合いからすると、「学校づくり」というのは少し言葉が足りない。確かに、「づくり」は少しまじりかなという感じがしますね。漢字でも。別に平仮名だからまじりわけではありませんが、適当な言葉があるといいかなと思います。

染谷市長
牧野委員

他に御意見はいかがでしょうか。

学校訪問で、学校に毎年行かせてもらいますと、校長先生、それから幾多の先生によって学校を作っていただいているのですが、常に生きているアメーバのように、学校が動いています。ですから、常に作っているという意味からすると、現在進行形といいますか、そういうのが学校だというと非常に分かりやすい、今のこの「学校づくり」というのは、言葉ではないかなと思って、私は非常におもしろい言葉でいいと思っていたんですが。今、北島委員のお話を伺うと、確かにそれだけに限定するより、もっと広い範囲のことがあると見ますと、非常に悩みます。

でも、たくさんある中で、平仮名がここに３つあるものですから、僕はこれが好きです。

原委員

「信頼される学校づくり」という言葉が、他の言葉と語尾が少しということですがけれども、学校現場の中では、「信頼される学校づくり」という言葉が１つの名詞というか、頑張っていかなければならない目標の姿というところで挙げられていると思うのですけれどもね。

違和感があまりないんです。「信頼される学校づくり」という１つの項目として。ありかなと思って、少し調べてみたのですがけれども、他から出ている文書でも、子育て支援とか活性化というのと同列に、信頼される学校づくりという１つの項目で起こされているところが他県にも結構多くありました。

なので、これを読んだときに、他の人が、というか教職員関係は、た

ぶん「信頼される学校づくり」という言葉がずっと入ってくるのではないかなと思いました。

染谷市長
濱田教育長

教育長は何か御意見ありますか。

私は、北島委員のお話を聞いて、自分が校長のとき、大変苦勞したものですから、何とか学校現場の信頼を回復するという思いを込めて、就任当時、信頼される教育委員会、そして信頼される学校づくり、という言葉を使いました。そのイメージがあったものですから、「信頼される学校づくり」は、どうしても大きな課題だという思いが強かったものですから、この大綱でも、「学校づくり」という言葉を使ったことを今思い返しました。

一方で、今、北島委員がおっしゃったように、ないものを作るときには「つくる」だけども、もう既にある程度できたものについては、「づくり」よりも「推進」のような言葉がいいというお考えだったと思うのですが、そうやって考えてみると、就任当時、要するに4年前と今ではやはり、環境が大きく変わっているものですから、定着はしている、言葉を大事にするという考え方の一方に、時代に合わせて変えていくという考え方もあるなと思います。

私は、これは変えても、それからそのままでも、どちらでもいいと思うのですが、状況は変わってきていると、率直な感想として持っているところです。

皆さんの協議に任せたいと思っています。

北島委員

今、皆さんの意見を拝聴して、少し思いついたのですが、例えば、学校づくりということだけ見ますと、学校を運営するとか経営するとかいう言い方がありますね。「学校運営支援」というふうな、例えばこんな言葉はどうでしょう。「信頼される学校運営支援」。漢字が6つ続きますけれども。「の」を入れてもいいかもしれませんが、内容は同じです。

染谷市長

今、漢字が6つも続いて、少し硬くはなるけれども、これまでの議論を踏まえると、「信頼される学校運営支援」という言葉が相応しいのではないか、という言葉も出ました。

しかし、これまでの「信頼される学校づくり」という文言の中には、学校運営支援という意味が込められて使われている言葉でもあるんですね。

濱田教育長

北島委員の「支援」という表現につきましては、私は少し若干違和感を感じます。

それは、重点取組の中に、先ほども少し触れたんですが、やはり学校教育でも、「家庭・地域・学校の連携を推進する」と書かれています。「支援」という言葉は、誰かが誰かを助けるという意味合いが強いのだと思います。連携というよりも、助けるという意味合いが強くなる表現は、これは学校教育の今までの進め方と少し乖離があるのではないかなと思います。

ですから、「支援」で終わるのだったら、私は「信頼される学校教育の推進」とか、他の項目のバランスから考えますと、振興とか推進とかというような言葉で終わったほうがいいと思います。

子育てのところは、まさに本当に支援が必要と思うものですから、本当に「支援」と思うのですが、学校のところについては、支援というのは少し違和感を感じるのですが、皆さんどうでしょうか。

原委員

私も、教育長と同じ意見です。

もし、どうしても言葉を入れるようだったら、「信頼される学校づくりの推進」という言葉でもいいかなと思いました。

染谷市長

これまで、いろいろ御意見いただいた中で、いかがでしたでしょうか、秋田委員。聞いていて、どのようにお考えになりましたか。

秋田委員

皆さんのお話を伺って、「学校づくり」という言葉の中に、いろんな意味合いが含まれているというのは、すごくよく分かりました。なので、このままでもいいと思いますし、今、原委員がおっしゃった「学校づくりの推進」、言葉としてこれがしっくりくるのかどうなのか、少し分からないですけども、これからも、もっともっと前へ進んで行くという意味合いを込めて、「推進」という言葉は、島田市の目指したい方向を表すのには、ぴったりとくる言葉かなと感じております。

染谷市長

「学校づくり」という言葉だけだと、まだできてないから創る、という解釈もあるという言葉が最初に出ましたが、だいぶ進んでいるというか、かなり頑張っている島田市においては、この「信頼される学校づくりの推進」という言葉を1つ入れることで、今も頑張っているけれど、これからももっと進めていくという意味を込めていくということで、「信頼される学校づくりの推進」でいかがかと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

御意見があれば、聞かせていただきたいと思います。

北島委員

結構です。

染谷市長

よろしいですか、はい。

では、施策の柱、大きな2の(2)です。「信頼される学校づくり」とありますが、ここを「信頼される学校づくりの推進」としたいと思えます。

他に全体を通して御意見がありましたら、お聞かせください。

北島委員

少し細かい部分でよろしいでしょうか。

この表現ということでありましたら、3ページの「(4) 青少年の健全育成」の「重点的取組」で、「市民総がかりで」という文言があります。これ全部通して「市民総がかりで」となっているわけですが、ここだけ改めて「市民総がかりで」と入れる必要がない気がしまして、ここは取ったほうがすっきりするのかなと思いました。

それから、また細かいことですが、「(6) 文化・芸術」の「めざす姿」のところ、「市民は、文化・芸術に親しむ心を大切にします。」は「楽しみます。」でいいではなからうかと思うんですね。例えば、スポーツのところでも、「健康的な生活を送ります。」になっています。ここも同じように考えると、「文化・芸術に親しみます。」ですっきりすると思います。

それから少し前後します。(4)の重点的のところ「市民総がかりで」を小見出しからもし取るとしますと、もし、これを特に入りたいとしますと、その下の「家庭・学校・地域が一体となって、」と、少しくどいよ

うですが、「市民総がかりで」と、ここに入れるのは不自然ではない気がします。少しくどいですがけれども。

もう1つ、やはり(4)のところです。「めざす姿」の中の2行目です。「健やかに自立した青少年を育てます。」、これ、「した」というのが過去形ですね。「育てます」というのは、これからのことのような気がします。「健やかに自立できる青少年を育てます。」のほうが、語感としては素直かなと思いました。

染谷市長

3点の御提案を、北島委員からいただきました。

1つ目は、「(4) 青少年の健全育成」のところ。まずは「めざす姿」で、「心身ともに健やかに自立した青少年を育てます。」と、「自立した」というのは、既に自立しているというか、過去の表現なので、「自立できる青少年を育てます。」としてはどうか。

そして、(4)の重点的取組のところ、「市民総がかりで青少年の健全育成を支援」という、この「市民総がかり」がここでも出てくるのでくどいという印象を持つと。どうしても入れるのであれば、そのあとの、「家庭・学校・地域が一体となって市民総がかりで、青少年が明るい未来を切り拓いていく」という形にしてはどうか、とういことが2点目。

それから、3つ目は、(6)の「文化・芸術活動の振興」のところ、めざす姿。「市民は、文化・芸術に親しむ心を大切にします。」は「楽しみます。」でいいのではないかと、という御意見をいただいたのちに、もっと言えば、「市民は、文化・芸術に親しみます。」でいいのではないかと、この3点でございます。

御意見があればお聞かせください。お願いします。

では、すぐに御意見が出ないようですので、順番にやっていきたいと思えます。

(4)のめざす姿のところでございます。「自立した青少年を育てます。」「自立できる青少年を育てます。」、このところはいかがでしょうか。

いかがでしょうか、御意見があれば。表現上の問題ですが。

事務局で何かありましたら、聞かせてください。

鈴木教育総務課長

特に、先ほど北島委員から「自立した」というところが過去形であるということでしたが、文言を作成したこの当時の意味合いとしましては、「結果的にこうなる、そういった人を育てる」ということで考えておりましたので、あながち間違いではないのかなと。また北島委員が言われたような「自立できる」ことについても、言葉として全然おかしくはないと、読んでいっても素直に聞き取れる文言と考えます。

染谷市長

原文になる「自立した青少年」というのは、そのような完成形を目指した、表現した言葉だということですね。

北島委員

分かりました。

過去形というよりもむしろ、現在の状態を示すという、こういうこともありだと思えますね。ですから、それはそれで、やはり元のとおりでもよろしいかと思えますが、でも、自立って何でしょうと考えると、1つの定まった形があるわけではなくて、ものすごく多様なんですね。だから、あまり「自立した」というのは、どういう姿だって示されないん

ですよ。だから、「できる」と、ときと場合によってどんな形にでもなり得るでしょうと思いますが、そういう意味で、「できる」のほうが緩やかでいいのかなと、僕は感覚としては思います。

染谷市長

「自立した」は、この「した」は過去形だけでなく、現在の状態を表した言葉という解釈で、最初のときはこの文章の表現を考えたわけです。しかし、もう一度考えてみれば、「自立できる青少年を育てる」ということが目標ではないのかという意見がありました。

濱田教育長

私は、「自立した」ということで違和感を持っていなかったものですから、そこにはあまりこだわってなかったです。「自立できる」でもいいし、「自立する青少年」でもいいかなとは思っています。

ただ、今読み返してみますと、自立の中に健やかも入っているから、少し重なりのある言葉かな、逆に「心身とも自立する青少年を育てます。」と言っても、十分に言いたいとは伝わるのではないかなとも思いましたから、再度ここを読みますと、「できる」でもいいし、「する」にしてもいいし、一方で「健やか」を除いても、十分自立の中にその言葉は含まれているとも思うものですから、その辺りは、皆さんと協議する中で決めていけたらいいと思います。

染谷市長

新たに「心身ともに自立する青少年を育てます。」という意見も出ました。

北島委員

北島委員、どうでしょう。
私だけかもしれませんが、言葉はできるだけ少なくしたいんですね。「健やかに」を取るとするのは非常にいいアイデアだと思いました。「する」もオーケーだなと。「する」も実は私も次の副案としてはあったんですけども、それもいいと思います。

染谷市長

前に「健やかに」があると、「自立する」ところが、なかなか重なりが難しかったんですが、「健やかに」を取れば、「心身ともに自立する青少年を育てます。」ということで、しっかりしますの。これでよろしいでしょうか。

北島委員

はい。

染谷市長

では、「心身ともに自立する青少年を育てます。」ということで、「健やかに」を取ります。そして、「自立した」の「した」を「する」にさせていただきます。

では、次です。(4)の重点的取組、「市民総がかりで青少年の健全育成を支援」に、「市民総がかり」という言葉が入ってきていて、また言う必要があるのかということでございますが、皆さんの御意見はいかがでしょう。

牧野委員

施策の柱に「青少年の健全育成」と立ち上げて、重点的取組の段階であえて「市民総がかり」を加えているので、このままでいいと思います。

染谷市長

あえて加えているという御意見であります。

いかがでしょう。

北島委員

別のアイデアですが、そうすると逆に「市民総がかり」は、一番最初に基本理念に入っているんですね。ですから、以下のことは全て総がかりに決まっているのです。ですから、施策の柱の(1)の「市民総が

染谷市長
北島委員

かり」も削って、この（４）の「市民総がかり」も削ってしまっただろうでしょうか。極端な意見かもしれませんが、ひとつのアイデアです。

基本理念の「総がかり」も削るといえることですか。

基本理念に「総がかり」がありますので、施策の柱の（１）のタイトルですね。以下のものは、全て基本理念がベースにあると考えますと、「２施策の柱」以降のところは、「総がかり」は全て取ってもいいのではないだろうか。

濱田教育長

私は（１）のところの「総がかり」を入れたときの話合いの経緯を考えますと、（１）はやはり残すべきではないかなと思います。（４）の「市民総がかり」は、基本理念の中の「市民総がかり」と重なってくるものですから、これは抜くことについての異議はありません。

では（１）を何故残そうかというところ、ここに手を入れていかないと、これからの島田の教育は前進しないのではないかと、という話合いがあったと思います。また、ここが一番弱いところである、なかなか行政が手を入れにくいところである、そこをあえてきちっと謳うことによって、ここに力を入れていこうという話し合いがなされた記憶があります。

そういう意味では、まだまだこのところは、今後も大きな課題となっていくと思います。行政の一番手の入れにくいところであるからです。

そういうことを考えますと、（１）の「市民総がかり」は、あえてそこに力を入れるという意味を表明する意味でも、残すべきではないかと思えます。ただ一方で、青少年の健全育成については、これは下の言葉の中に「家庭・学校・地域が一体となって」という言葉が入っているものですから、ここは「市民総がかり」を抜かして、「青少年の健全育成を支援」というこの言葉だけでもいいような気がします。

染谷市長

今、教育長からも話がありましたが、先ほど北島委員の提案の中には、「家庭・学校・地域が一体となって市民総がかりで」という言葉を入れはどうかという御発言がありましたが、「家庭・学校・地域が一体となって」ということは市民総がかりなので、ここも二重の表現になってしまいます。ですから、ここは「市民総がかり」という言葉を取って、「青少年の健全育成を支援」という形にして、そしてその説明の中で、「家庭・学校・地域が一体となって」という、市民総ぐるみの言葉が表現を変えて入っていますので、「市民総がかりで」を取るのがいいのではないかと、いう形ですが、よろしいでしょうか。

牧野委員
染谷市長

それで結構です。

ありがとうございます。

では、（４）の重点的取組でございますが、「市民総がかりで」という言葉をとって、「青少年の健全育成を支援」という文言だけにいたします。そして、その下の説明文については、このまま使いたいと思います。

では次、３点目です。（６）の「文化・芸術活動の振興」のところ、めざす姿を「市民は、文化・芸術に親しむ心を大切にします。」を、「市民は、文化・芸術を楽しみます。」もしくは、「市民は、文化・芸術に親しみます。」のどちらかでどうかという御意見でございます。

いかがでしょうか。御意見があれば聞かせてください。

牧野委員 確かに、簡単ですが、内容は分かりますね。分かりやすいです。「市民は、文化・芸術に親しみます。」いいと思います。

原委員 私も牧野委員と同じで、「市民は、文化・芸術に親しみます。」。簡単ですけども、一番願っている姿が明確かなと思いました。

秋田委員 親しむ心を大切にしますという言葉が、ついた思いというのも分かりますけども、言葉の数が多いと分かりにくくなるころもあると思いますので、「親しみます」で意味合いが通じるのであれば、「親しみます」でいいと思います。

濱田教育長 皆さんの意見と同様で、内容は変わらないということで、「文化・芸術に親しみます。」でいいと思います。

染谷市長 ここは全員の御賛同を得て、「市民は、文化・芸術に親しみます。」と変更させていただきたいと思います。

他に気づきの点がありましたら、お聞かせください。

いかがでしょうか。よろしいですか。

もし、他にないようでしたら、これまできょう皆様からいただいたさまざまなご意見を反映させた内容で、島田市教育大綱を決定することにいたしたいと思います。

御異議はございませんか。

異議ありません。

ありがとうございます。

それでは、この内容で島田市教育大綱を決定することといたします。

時間がもう少しありますので、もしよろしければ、来年度の総合教育会議での協議事項について、皆様とお話できればと思います。

以前、皆様に総合教育会議における検討課題について、早急にまたは将来的に必要となると思われる事案・事項・施策について、端的に項目を挙げていただきました。

この中で、学校現場での人手不足という御意見がございまして、これに関して教職員の多忙化について議題にした経緯もございしますが、今後の総合教育会議のテーマとしていく課題について、御意見を今日はいただければと思います。

御意見については、本日の会議の中で結論づけるものではなく、これからの協議の参考にしたいと思いますので、もしよろしければ多くの御意見を出していただきたいと思います。

いかがでしょうか。

ちなみに、過去に出ています総合教育会議における課題提案という中には、幼児教育について。これは、市内私立幼稚園との連携不足や、家庭教育学級のことなどです。

そして2つ目は、子育て支援について。市と教育委員会の子育て支援に係る連携の強化についてです。

3つ目は、公平公正な運営について。施設の運用や講座の開催日、時間および場所の決定等について議論してはどうかということでした。

4つ目は、市民遺産について。市内各地域での特性を、市民が自らのものとするための共有意識を育むということで、課題としてはどうかと。

5つ目は、市内外国人との交流についてということで、交流により、市民が島田市を知る、海外への発信ということで、テーマをいただいております。

6つ目は、子供の教育時期と親の介護時期が同じ時期になりつつあることについて、という御提案をいただきました。

7つ目は、学校現場での人手不足ということで、教員のOB・OGの力を借りるシステムについて話し合いたいという御提案でした。

8つ目が、保健師の増員について。ゼロ歳児からの見守り、お年寄りへの支援体制強化について話をしてはどうかということがございました。

また、他市においては、学校施設整備についてとか、青少年の健全育成と生徒指導について、学校の教材の充実について、子供の貧困対策について、学校における防災対策についてなど、さまざまなテーマが総合教育会議でも取り上げられているようでございます。

平成30年度の島田市総合教育会議において、検討課題としたい課題提案がございましたら、お聞かせをください。

いかがでしょうか。

幼児教育というところでは、皆様には、島田市立の保育園には行っているのでしょうか。

去年は、私立の幼稚園を訪問して、意見聴取をしています。今年は、こども園と、保育園を訪問する予定だったのですが、実は保育園の都合で、園長さんがインフルエンザや学級閉鎖ということがありまして、延期になっていて、まだできてないのですが、一応教育委員としては、今年は保育園・こども園への訪問を予定して、意見を聞きたいと思っていますところですよ。

ありがとうございます。

では、私からいいですか。

以前、少し情報提供という形で、特別支援教育についてお話をさせていただきました。今後の特別支援教育のあり方については、一度御協議していただいてもいいかなと思います。

これは今後、学校建設とも絡んできます。拠点校化の問題、そして通級指導教室の問題、これは施設の問題とも係わってきます。そういう意味で、どこかで一度話し合う必要があるのではないかなと思っています。

そして、もう1点。社会教育施設をたくさん、教育委員会は持っていますが、使用料のさまざまな減免があります。そういう中で、例えば、公民館施設の場合、地域住民に対しての減免を今後どう考えるか、やはりきちっとしたものを出していく必要があるのかなと思います。

そういう意味では、施設の公平公正な運用につながってくると思うのですが、その辺りのことも一度協議に値する話題ではないかなと思っています。

それ以外に、皆さんからありましたら、お聞きしたいと思います。

他にはいかがでしょうか。

こういう会議で話題にするのがいいのか分かりませんが、2週間ほど

濱田教育長

染谷市長
濱田教育長

染谷市長
北島委員

染谷市長

前に聞いたニュースによりますと、いずれ日本全国の学校の数は約3分の1におしなべてなる。東京や大阪のような大都会ですら、4割から5割ぐらいになるであろうと。小学校が減れば、中学校も減るわけですし、高校も減るし、大学もこのまま維持できるとは思えませんが、こういう時代が来ると言われています。

冒頭、市長からもお話がありました、右肩上がりにはならない、こういう社会がずうっと続いていますし、少子高齢化もこれに伴う変化であろうと思うのですけれども、学校現場でも、そういうことが割合近くにあるのではないかと。そういうことを考えますと、市の教育の施策として、すぐにできるものではないだろうと思うのですが、切羽詰まってからではなくて、少しずつ検討していくことがないのかなと思ってはいます。

具体的にどんなことから切り口にすればいいのか、これは全くアイデアはありませんけれども、何となく漠然たる不安というか、考えなくてはいけないという課題感を持っております。

ありがとうございます。

今、団塊の世代の人達が800万人以上いる中で、この数年生まれてくる日本の子供は、年間に100万人を切っている現状です。団塊の世代は、昭和22、23、24年の3年間で800万人を超える人数がいたわけですから、人口規模では3分の1ぐらいになりつつあるということが、先ほどの将来学校の数は3分の1というところにもつながってくるのかなとお話を伺いましたが、やはり、これからの学校のあり方ということも含めて、議題に、すぐどうこうではないけれども、みんなで話す機会が必要ではないか、という御提案でございます。

他にございましたら。

よろしいですか。

それでは、過去にいただいております総合教育会議における課題提案と、そして、今回いただきました、特別支援教育にあり方について、あるいは、学校教育施設の減免について、あるいは、将来の学校数、子供の少子化によって激減する時代を20から30年先というスパンでありますけれども、目前にしている今の日本において、島田市の学校の数でありましたり、今後の子供達の教育環境、どうあるべきなのか、とうような議論をしたいということでございます。

このあたりで、事務局で調整をさせていただいてもよろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただいて、平成30年度の総合教育会議のテーマを決めさせていただきたいと思っております。

本日は、多くの御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。次回は、来年度に入ってから開催を予定しております。

本日は、短い時間でありましたが、有意義な意見交換ができたこと、心から感謝を申し上げます。

以上を持ちまして、第3回の総合教育会議を閉会したいと思います。事務局から何かありますか。

よろしいですか。

ではここで、閉会をさせていただきたいと思います。本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

閉 会 午前10時23分